

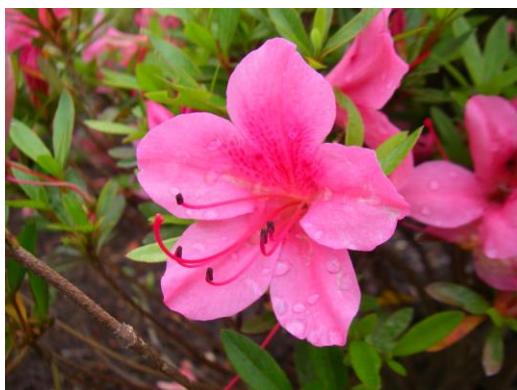
統計だより

県内各市町の統計所管課だより(その17波佐見町)

波佐見町 商工観光課

地 勢

虚空蔵山系を南に、東北を神六山系に、西を弘法岳山系の 100～500 メートルの山々が起伏しています。町の中央を東北から南南西にのびる川棚川は、川棚町を経て大村湾に注いでいます。これに沿って、折敷瀬、宿、田の頭、岳辺田、平野地区が平坦部を形成し、やや密集した集落が連なり、水田が耕されています。山林は、傾斜地に拓かれた畑地帯から山頂に達して、町全体を囲み森林資源地帯を形成しています。地質は、第三期層丘陵と石英粗面岩類の山地がいたるところに散在起伏し、沖積層平坦部がその間に入りこみ複雑な地形をなしています。



町花 つつじ



町木 もちの木

概 要

本町は長崎県のほぼ中央、東彼杵郡の北部に位置し、西は佐世保市、南は川棚町、東は佐賀県武雄市、嬉野市に、北は佐賀県有田町に接しています。

東西 10.5 キロメートル、南北 7.0 キロメートル、周囲 33 キロメートルで総面積 56.00 平方キロメートルです。また、長崎県内でも海に面していない唯一の町でもあります。人口は、15,324 人、戸数は 5,017 戸（平成 23 年 7 月末現在）ですが、400 年の伝統をもつ全国屈指の[やきものの町]として栄えてまいりました。全国の一般家庭で使われている日用食器の約 13%は波佐見町で生産されています。町内には陶磁器に関する約 400 の事業所があり、町内の約 2,000 人が窯業関係の仕事にたずさわっています。

波佐見焼について

波佐見焼の誕生は今からおよそ 400 年も前にさかのぼります。慶長 3 年（1598）、文禄・慶長の役に参加した大村藩主・大村喜前は朝鮮の陶工・李祐慶兄弟たちを連れ帰りました。その翌年彼らが波佐見町村木の畑ノ原、古皿屋、山似田に階段状連房式登窯を築き、やきものづくりを始め、ここに波佐見焼は産声をあげたと伝えられています。はじめは施釉陶器をつくっていましたがその後、磁器の原料が発見されてからは急速に染付と青磁を中心とする磁器生産に移行します。後に大村藩の特産品に数えられ、江戸後期には日本一の磁器生産量を誇るまでになりました。



やきもの体験

中尾山伝習館

- ・手びねりろくろ・絵付け体験等を行うことができます。

現在は新型コロナウイルスの感染防止対策としてすべて予約制で受け付けております。

中尾山伝習館ホームページはこちらから⇒<https://densyuukan.jimdofree.com/>

くらわん館

- ・絵付け・ろくろ・たたら型うちなどが体験できます。まずは、お問い合わせください。

くらわん館ホームページはこちらから⇒<http://kurawankashop.sakura.ne.jp/>